

勝浦人形浄瑠璃保存会

ことぶきしきさんばそう

寿式三番叟

「三番叟」は元来、五穀豊穡・天下泰平を祈る意味を持つものですが、縁起のいいものとして、舞台公演の無事と成功を祈願して行われ、また新築棟上げや落成式、結婚式などでめでたい席や毎年正月には宮中で上演されるなど、多くはお祝いや開幕に際して演じられるものとなりました。

文楽では「翁(おきな)・千歳(せんざい)」二人の三番叟が定番となっており、田植えを舞う「揉みの段」、鈴をもって種まきを舞う「鈴の段」に分かれます。また、文楽のみならず能・歌舞伎・神楽など日本の伝統芸能の中で演じられ、重視される儀礼曲です。

今回上演しますのは、二人の三番叟が連れ舞い、鶴の舞、鶴亀の踊りがあったりする中の、鈴をもって種まきのしぐさがあったり、曲に合わせて、だんだんと踊りも激しくなり、やがて、一人が舞い疲れて休もうとすると、もう一方が引きとどめ「いっしょにおどろう」と、最後まで舞い納める、ユーモアあふれる出し物である。

伊達娘 恋の緋鹿子火の見櫓の段

菅専助、松田和吉、若竹笛男 作

「火事は江戸の華」といわれるほど、江戸の町はよく火災に見舞われました。防災設備が貧弱で、木造の小住宅ばかりでできた過密都市の宿命といえます。放火は死罪、しかも火あぶりの極刑というのが当時の掟。数多い火災の中で、天和2年(1682年)の火事は、八百屋お七の物語として今も語り継がれています。

八百屋「久兵衛」の一人娘「お七」は、恋人の「吉三郎」が今宵、切腹しなければならぬ原因となった天国の刀を、「武兵衛」のもとから盗み出そうと決意します。江戸の町では九つの鐘を合図に木戸が閉められ、以後の通行は禁止されていますが、たとえ刀が手に入ってもそれでは吉三郎に渡すことができません。お七は、火あぶりの刑を覚悟で、火事でもないのに火の見櫓の鐘を打ち、木戸を開かせたのです。

髪を振り乱し、半狂乱になりながら火の見櫓に登るお七の様子にご注目ください。

戦後75年 女優が語るあの夏の日

昭和20年 終戦直後の福岡の町で ひかりを求めて生きた 子供たちの暮らしを描き綴った 絵本の朗読と 和やかな 珠玉のトーク。

<出演者プロフィール>

長内美那子

劇団青年座出身

●主な出演作品

テレビ 愛染かつら
やすらぎの郷

映画 ベコスの母に会いに行く

舞台 夏の雲は忘れない



山口果林

劇団俳優座出身

●主な出演作品

テレビ 繭子ひとり
特捜9 season3

映画 砂の器

舞台 夏の雲は忘れない



福津民話劇団

ピアノソナタ「月光」による朗読劇「月光の夏」

原作・脚本 / 毛利恒之 演出 / 坂口 聡

この物語は実話を基にして創作されたものです。

1990年(平成2年)、佐賀県鳥栖小学校にある古いグランドピアノが廃棄されようとしていた。

かつてこの小学校で教師をしていた吉岡公子は、そのピアノに忘れられない思い出を秘めていた。ピアノを平和の証(あかし)として保存したいと言う願いから、公子は全校朝会で児童たちにピアノの思い出を語った。

太平洋戦争末期の昭和20年初夏、佐賀県目達原基地の特攻隊員2人が小学校に駆けつけ、今生の別れに上野音楽学校出身の1人がベートーベンのピアノソナタ「月光」を弾き、熊本師範学校出身のもう1人が「海ゆかば」を弾き、鹿児島島の知覧基地から沖縄の空へ出撃して行った。

ともに死のうと誓い合った彼らの前途には、過酷な運命が待ち受けていた。戦死した者にも、生き残った者にも戦争は非情、無残であった。

生き残った隊員、風間森介は阿蘇の山間の村に生存していたが、鳥栖でピアノを弾いたことについては、覚えていないとマスコミの取材を拒んだことから、公子の話は「嘘の作り話だ」との噂が広がり、「月光」を弾いた特攻隊員の存在は幻と化そうとする。この続きは朗読を聴いて下さい。

この物語は1992年に「月光の夏」のタイトルで映画化され、僅か2年間で210万人以上が観て泣いた!DVDも販売されていますので是非ご覧ください。

出演者: 仲代達矢、渡辺美佐子、若村麻由美、田中 実、永野典勝などです。

<演技指導/坂口 聡・プロフィール>

15歳より芝居を始める。2001年福岡に戻り、ミュージカル、ストレートプレイを中心に舞台活動を行う。2003年には福岡で演劇集団フリーダムを結成。

市民参加型ミュージカル「むなかた三女神記」を脚本・演出し、平成21年から29年まで毎年「宗像ユリックス」で公演活動を行ってきた。

福津 ふるさとと劇場 2020



演目



第一部

勝浦人形浄瑠璃保存会

「寿式三番叟」

「伊達娘 恋の緋鹿子火の見櫓の段」

第二部

戦後75年 女優が語るあの夏の日

出演/長内美那子、山口果林

第三部

福津民話劇団

「月光の夏」原作/毛利恒之 演出/坂口 聡